

企業名： 株式会社サニックス

レポート名： 2021年3月期統合報告書

1. この会社が目指す姿が理解できるか

当社の「次世代に快適な環境を」という企業理念は、当社業容拡大の歴史から考えると首肯できるものとする。住環境領域、エネルギー領域、資源循環領域という三つの領域を事業の柱とする業務内容が、世界的規模での環境問題への関心の高まりに合致したのは当社にとっては業容拡大の好機であろう。そうした中で、企業価値創造を創造してゆくための経営上の重要項目を「マテリアリティ」と称し、「地球環境」「社会システム」「企業と組織」の三つの分野を選定し、フォーカスすべき事業領域や価値創造プロセスについて述べられていることについては理解できる。一方で、これらを推し進める中期経営計画については、分野別の損益計画の記載はあるものの、新事業や新サービスの拡大については抽象的との印象を否めず、中期経営計画最終年度である2021年度に到達すべきゴールが明確には見えなかった。やや具体性に欠ける面はあるものの、当社企業理念やマテリアリティについては共感できる部分が多く、今後の業容拡大と環境問題への貢献には大いに期待したい。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

当社創業事業であるシロアリ駆除事業が含まれる住環境領域については相応の競争優位性があると思うが、残る二つのエネルギー領域や資源循環領域については他の競合企業に比べての絶対的な優位性は少ないと思う。統合報告書によれば当社の競争力の源泉は、地域に根ざした拠点網、顧客・社会のニーズに応える提案力・課題解決能力、多様なノウハウ・専門知識の3つであるとされている。しかしこれはほとんどの企業に当てはまるもので、同社の競争優位性の基盤とは言えるかもしれないが、優位性に直接大きな貢献をしているものではないと考えられる。シロアリ駆除という事業は目に見える効果を実感できるものではなく、過去には悪徳業者による被害事例が多く報道されていた時代もあり、業界の印象は良いとはいえない。その中では比較的クリーンな企業イメージを作ること成功しているように思われるので、それが競争優位性があると思う根拠である。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前述のような競争優位性は相応の時間をかけて築き上げられたものであり、現在のよう
な営業活動を継続する限りは持続性もあると考えるが、ひとたび問題や不祥事が起きれば
こうした信頼は一瞬にして失われるものであり、現在の優位性を維持することは容易
なことではない。組織が大きくなり、経営者が交代し、これまで積み上げた信頼や実績の
上に胡坐をかくようなことがあってはならない。持続できるかどうかは人にかかってお
り、社内風土や人事制度、実績管理等で大きな変化が起きようときには要注意であら
う。今回の報告書によれば、前社長急逝後も現社長が路線を踏襲している様子うかがえ
るものの、役員構成等については読み取ることができず、持続性についての判断は困
難である。

報告書 p.49 以降の「持続的成長を支える経営基盤」の項には、各種サステナビリティ
に関する記述が並んでいる。各種工事の施工件数等は当社の活動状況を考える上でイメ
ージが湧きやすい指標である。これらの指標が3年後、5年後にどうなることを目指して
いるのかの具体的な記載があればなお良いと思う。また、国内同業他社平均との比較も見
ておきたい。(当社は業界リーディングカンパニーであることは理解しているが)

また、「人に関するサステナビリティ」にも比較的多くの紙面が割かれており、人材を
人財としてとらえ大切にす企業でありたいという思想が窺える。

競争優位性の持続という論点がややずれたが、現時点での当社の長所を伸ばしてゆこう
とする方針が見て取れることから、持続性についても一定の成果を期待できると思われ
る。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

同社は従業員一人一人の質がサービスの質に直結するとの考えから「仕事が教育で教育が
経営理念である」を経営理念に掲げ、兼ねてから社員教育に力を入れてきた。また、顧客
満足度を高めるためには従業員がイキイキと働くことができる職場環境が必要であるとし
て、従業員教育に加え、職場環境づくりにも努めている。前述の「人に関するサステナ
ビリティ」では、人材育成や採用、福利厚生や労働安全衛生などで従業員を大切に扱う姿
勢が強調されている。教育カリキュラムや福利厚生などの状況を見ると、人的資本の価値
向上についても相応の達成が期待できる。教育は具体的に、マインドの育成を目的とした
段階的な能力開発やスキルの向上を目的としたカッツモデルに基づいて作られた研修体系
が敷かれており、その他にも自社のラグビーチームによるチームビルディングなど多様な
カリキュラムが開講されている。まず要求されるのは自身の向上心や努力ではあるもの

の、そのために時間を作れるだけの労働条件（休暇、時間外勤務等）が担保されているかどうかまでは読み取れなかった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

会社の将来目標の項において、理想とする社会とそのために同社がどのようにサポートしていくのかという記載はあったものの、会社自体の目指す将来像が読み取りづらかったので、そこを明記できるといいと思う。創業初期の「シロアリ駆除の会社」というイメージから脱却しきれていない印象を受けるものであり、現在の事業内容と取り組みを強化していく事業分野についての説明に具体性を増やしたい。前述のとおり、中期経営計画における事業分野別の損益計画は記載されているが「どの事業の何の件数をどのくらい」というわかりやすいKPIがあるとよいのではなかろうか。競争優位については、時間を重ねれば競合他社でも獲得できるようなものばかりがピックアップされていたので、他社には真似できない独自技術やサービスを見つけ出して記載できると尚良い。競争優位の持続に関しては、今ある優位を維持する推進力や、今後どうしたら新たな競争優位を獲得できるか、そのために必要となる投資の源泉は何かなどを追加で記載すると良いと思う。将来世代への働きかけは労働条件を記載すると改善される。また、同社の大きな特徴であった自社ラグビーチームが今年の5月で活動休止となったので、社会貢献の主軸としていたものを失った後に同社がどのようなアプローチをかけるのかを次の2022年の報告書には期待したい。ラグビーチームは休止するが、ラグビーを通じて育まれた企業文化は今後も同社の大きな財産となるだろう。

報告書の内容とは違ってしまうが、統合報告書を閲覧する際、PC版だと問題はないが、スマホ版で閲覧すると下に「校正3」の表示が出てくるので、改善した方がよいと思われる。